
迷犬チャッピ〜♪

桃白白

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

迷犬チャップリン

【Nコード】

N9126B

【作者名】

桃白白

【あらすじ】

なんか正体不明な犬がでて来ます。ボール遊びが大好きなようです。

俺の家庭は普通の家庭。父親母親子供1人。みんなさしたる特徴もない核家族。

：だった。

俺の名前は斉藤信。16歳の高校1年。父は隆夫でサラリーマン。母は恵子でスーパールのレジ。こんな平凡すぎる家族に、今から3か月ほど前にある事件が起こった。そう。この平凡さをぶち壊す大事件が：

「信！起きなさい！学校遅れるわよ！」

「うゝんわかったよ…！」

いつも俺は目覚まし時計だけじゃおきないので母が起こしてくれる。

「今日は早く行かなきゃならないんでしょ？」

「うん。7時までね…」

「私も今日はパートで1番に行ってお店開けなきゃなんないから急いでるのよ! たしかに起こしたからね! ちゃんと行きなさいよ!」
そう言い残して母はさっさと出て行った。親父は出張。おれも急いで行く準備をし、家をでる。

あくびをしながら家から出た俺。すると

ボツカアアアアアーン!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

家が大爆発した……。まじで……?

頭が混乱していると家のガレキの山のなかからなんか出て来た。

「ごほ! ごほ! 何が起こったそこの目付きの悪いガキ……!」

……俺か!? 俺のことか!?

「質問に答えんか貴様こら……!」

あまりに突然のことですっぱりわけが分らんかったが唯一わかることがあった。

「犬だ……」

「誰が犬だこら……! おめ……俺様が誰かわかってんのかこら……!」

「す、すいません! えっと……お、お名前は?」

「あ……ほんとに知らねえのか? 俺の名はラブラドル・T・レトリ

「ブJ r. だ！」

：やっぱり犬じゃ〜ん：

「えっとすいません：。あのおれもちょっと事態がさっぱりのみこめないんですけど：どっからこられたんですか？」
下手に出るおれ。

「いや、それは言えへん。」

急に関西弁でしゃべりだしながらガレキのなかから出て来た。

うん！確信した！あれは犬！
四足歩行で舌だして

「ハッハッ」って言って尻尾ふってるもん。あれはただの犬だよ！
ただちよっと喋るだけだよ！

「見下してんじゃねえよ！」

いや、やっぱり喋ったらそれだけで大事件だよ！

「やっべえどうしよう：。」

何がなんだかわからない。とりあえず当面の問題は家が爆発したこことこの犬の二つ。

家は幸い火もでてない。しかも近所の人が呼んだのか、消防車の音が聞こえるから大丈夫だろう。よってより緊急を要するのはこの人語を解する犬だ。

「すみませんレトリブさん！とりあえず向こうのほうで話しましょうか？」

「ん？別に構ワンぞ」

家の前で犬と話すのはまずい気がしたので近所の人が呼んだと思われる消防隊に見られる前に移動する。

「えっともう一度聞きますけど犬じゃないんですか？」

朝の誰もいない公園に場所を移して話をすることにした。

「だからおれさつきから言ってんじゃ〜ん！違うんだよ〜ん！おら犬なんかじゃなかとばい！」

なんだか腹がたってきたのでとりあえず一発殴った。

ボカッ！

「つて〜まじでちょ〜〜↓痛〜い！まじちよう信じらんないよ〜」

ボカッボカッ！

「も〜まじちよつと〜止め…」

ボカッボカッボカッボカッボカッ！！！！

「……ちょまじほんとすいません……。調子こいてました。」

「よしお前まず自分のことを詳しく説明しろ。」

「えっと自分は伝説のタコ焼き職人に……」

「嘘ついたら保健所におくるぞ？」

「自分名前は先程申し上げたとおりラブラード・T・レトリブと言います。決してあの盲導犬とかの分野で活動しているああいうのとは違います。3才半のオスです。どこから来たかというのはちょっと……」

「保健所行く？」

「宇宙から来ました」

あーやばい。あまりのびっくりに一瞬フラッと来た。

この犬（本人は違うと言い張るが明らかに犬）はなんと宇宙からわざわざ宇宙船で

「ペディグリー〇ヤム」を買いに来たところ、着陸に失敗。あんなことになったという。

「誰も怪我はしなくてすんだけどお前のせいで家が崩壊しちまった。責任は取ってくれるのかな？」

おれは睨みつけた。

「いやすいません！反省してます！償いはしたいと思います！再発防止に努め第二第三の犠牲をださないことが私にできるただ唯一の……」

ボカッボカッ！

冗談じゃない！

「いやもうほんと勘弁して下さいよ〜！」

「黙れ。」

犬がしゅんとして座り込んだ。最初の怒鳴ってた威勢は遙か彼方に消えてしまった感じた。

おれはとりあえず絶対こいつを逃がさないように首輪とヒモを買ってつけた。

「：わるくないじゃん♪」

：バカ犬は放つとく。

時間は10時をまわっていたが学校なんかに行ってる場合ではない。

とりあえず犬を公園の木にガッチリ結び付けて家に戻った。

家の前では母親が

「あらら」って感じで立ってた。パートから急いで帰ってくるまでにおれの目撃情報を近所のおばちゃんから聞いたため心配はしていなかったらしい。

「かあさん！」

「信！大変な事になったわね〜：：ハアまあ誰も怪我しなかったからなによりね：。でも火事でも地震でもなくて一体何だったのかしらね：。」

どうやらまだガレキをいじくったりしてないらしく原因は不明とい

うことになっているらしい。おれは知っているが宇宙船だなんて言うていいのか：しかし撤去作業にかかればすぐに分ることだろう：

おれはとにかく母だけには事実を話し公園から犬を連れて来た。

母も最初驚きを隠し切れてなかったが案外すんなりその存在を受け入れた

「そゝ宇宙船でねゝ。ガソリンはレギュラー？ハイオク？それか石炭？」っとか言ってる。

犬も

「そうなんですよゝメタンハイドレードなんですけどゝ今大体1L 100円前後でゝゝゝ」

もうなんだかわけわからん。なぜか母はこのあと犬とすごい盛り上がって話してた。

今も犬がペディグリー○ヤム食べたって言ったらすぐに買ってやってるし：

：

よく見るとこの犬ちよつと可愛いな：

犬は満面の笑みを浮かべつつ必死な顔で食べ続けている。

「なあ犬：お前帰りはどうするんだ？宇宙船壊れたんだろ？」

やつは食べるのを中断してこつちをむく。鼻にエサがついている：

「……………」

「あてがないのか？」

「……」微動だにしないでこっちを見つめる。

凶星らしい。

「どうしよう：帰れないよ：直せないもん：」

ハア：って感じだ。自分の星に帰れない宇宙人（犬）。

「おい犬！おまえなんかできることあるか？」

「え：なんかってなに？」

「宇宙人なら地球人とは違う能力持つてんじゃないのか？」

「ああもちろんあるぞわす！おいどん100キロはなれた場所に放置されても絶対帰れるし、

鼻は君達の1000倍はいいんでござりまするあるよ！得意なスポーツはフリスビー♪うわを！！」

ああっ：めまいがする：犬だ：ただの犬がしゃべってるだけだ：

「すごいわね！」

すごかないよかあさん！犬の習性だよ！家が崩壊してやっぱり頭混乱してんじゃないの？

「ねえ信！この犬うちで飼いましょうよ！すごいわこの子！」

おれも一瞬考えたよそれは……。でも買って役に立つことなにもないよ?! なんもできなくてただのトラブルメーカーになることは目に見えてるよ!?

「……………」

「その前に俺たち家は？」

「大丈夫! お祖母ちゃんの家があるじゃない! 今お祖母ちゃんは老人ホームに入ってるから大丈夫よ!」

こんな「びっくり喋り犬」を飼うのに大乗り気になった母を誰が止められるだろうか。そんなやつはいやしない。……いやいつもの母なら止められる。しかし今は家爆発直後だからだろうか、

おれが小さい子供だったら

「あんなやつママじゃない」と泣き出すほどあれな雰囲気醸し出していた：

「お前の名前なんか呼びにくいよ。名前の途中のTってなんなんだ?」

「ん? チャップイっていうんだよ!」

「チャップイか。まあお前がなんとか帰れるまでうちで面倒みてやるよ。」

「ごっつあんです！」

こうしてうちに新たなメンバーが加わり早くも3か月が経とうとしている：最初は申し訳なさそうにしていたチャッピーは：：まあいわなくてもどんな様子かわかるだろう：。

世界で俺ん家がいいで喋って

「笑っていいと○」見て爆笑する犬飼ってるやつなんていんのかな
：

(後書き)

この小説はなんか小説書こうと思ってすぐに書き始めたものです。そのため構想もなにもなく目茶苦茶に気が向くままに書きました。でも一生懸命でした。どうか再起不能になるほどのシビアな批評だけは勘弁して下さい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9126b/>

迷犬チャッピー〜♪

2011年1月19日23時47分発行